

地元小学生に森林教室を行いました



森林のはたらきについて説明しました。

新型コロナウイルス感染状況に注視しつつ、令和4年度第1回目の森林教室を八幡平市立安代小学校からの依頼により、令和4年4月27日(水)、サクラの花が満開のもと、5年生16名を対象に実施しました。

前半は小学校内の視聴覚教室において、森林管理署の仕事内容の紹介や、日本・世界の森林の大きさ、森林が人にとって欠かせないものであることについて説明し、後半は小学校の周辺に生育している樹木解説や、ルーペを使った植物観察を行い、最後は校庭に生息しているサクラの木を輪尺とポールを使い測りました。



サクラの木の高さをポールを使って計測。

木を測る道具を小学生の皆さんは初めて見たこともあり、大変興味を示していました。また、胸高直径と樹高の数値から、材積がどのくらいあるかを実感してもらうため、巻尺で1m³(縦1m、横1m、高さ1m)の立方体を作り、視覚で分かるよう説明しました。

閉会式において、小学生の皆さんから、「学校にある木が何の木か分からなかったが、教えてもらえてよかった」、「木の測り方が分かってよかった」、「森林教室は考えていたより楽しかった」等の感想が聞かれました。

今後においても新型コロナウイルス感染状況は続くと思われませんが、感染対策を徹底し、森林教室が継続できることを期待しています。



満開のサクラの木の下で、楽しい森林教室ができました。